

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス みのり		
○保護者評価実施期間	R7年1月14日		~ R7年1月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	R7年1月14日		~ R7年1月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	R7年2月8日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	しっかりとした個別支援計画表が立てられており、現場スタッフからの見立て等も反映された計画となっている。 児童発達管理者以外のスタッフも個別支援計画というものがかかという勉強が出来て行く。	新しいフォーマットに準じた計画に沿って5領域等が反映されている。 読みやすくわかりやすい文面になっている。	相談員さんと今以上に連携を取って行く。
2	ご家族も交えた特別なイベントが毎年行われている。 放課後等デイサービスでご自身のお子さんの様子や他児の様子などを知る良い機会を設けている。交流が図れる。	支援者ではなく、ご家族同士での情報共有が出来る場の提供をしている。モニタリング会議では話せなかったこと等を雑談形式で行っている。	イベントを充実させ、もう少しだけ回数が増やせるようなことを企画して行きたい。
3	季節の応じたイベント、ものづくりを行っている。	ものづくりをすることで集中力を養ったり、作品等が完成した時の達成感や感動等を感じ取ってもらい成功体験を積み重ねていく。	個人で1つのもの、全員で1つの大きな作品と言ったように目標を立てて計画的に活動して行ければよい。 利用者さん個人の差があるため、その辺りをどのようにクリアしていくのか検討を重ねて行かなければならない。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	PDCAサイクルが定着していない。(特に最後のAの部分が中途半端で終わってしまっている。	利用者さんに対して課題と思われる部分の見立てに差が出ており、まとまらないこともある。	せっかく個別支援計画が出来ているのでより理解をしてもらい支援に繋げてもらう。 自分ひとりだけの困りにしないこと。
2	スタッフの支援の力量の差がある。	面倒なことや知識の不足などで「療育」という判断が各個人で出来ていない。 福祉経験はあり大人の方に長けてる人材や福祉経験は浅いが子供への支援には長けているもの等、スタッフそれぞれの個性がある。	支援を行っている内容が「療育」としてどのように繋がっているのかということ意識してほしい。継続は力なりと言うことを念頭に支援にあたっていく。
3	スタッフ感のコミュニケーション不足。	過去の自分の職歴で培ってきたことの支援をベースにしてしまっている。自分のやり方が絶対と言う意識が出てしまっている。	お互いの意思を尊重しあい、良いところは盗んで自分の力に繋げていく。自分以外の周りの人のことを認めてみる。